

# あそびまつりだより No.2

頌栄幼稚園

2020.9.9

暴風と共に大きな台風が過ぎ去りましたが、少しでも早く被害にあわれた地域の方々の安心した生活が訪れるようお祈りいたします。異年齢で遊び始めて数日経ちますが、毎日少しずつ関わり合いが見えてきました。初めはお互いに緊張していましたが、日を追うごとに他学年とも自然と遊び声を掛け合う姿が見えてきました。今回は、巧技台の遊びについてピックアップしてお伝えいたします。

## 自分たちで組み立てられた！

初日、巧技台に気が付き遊び始めた年中組。年少組の時にお兄さんお姉さんに組み立ててもらった記憶の元、“今度は自分たちでやってみよう！”と力を合わせながら巧技台を運び始めました。一生懸命汗をかきながら運ぶ姿は、とても頼もしくまた一つ成長を感じました。



組み立てている内に、お友達が集まってきてみるみる内に、長い1本橋や4段の巧技台が出来上がりました。

そこへ初めて巧技台へ来た年少組のAくん。お兄さんお姉さんの真似をしながら1本橋をゆっくりと登ります。しばらく巧技台の上に座り、園庭を見回していました。Aくんの4段の上から見る景色はどんな風にしたのでしょうか。

そっと順番を待つ年中組。しかし、降りたいけれど降りられなくなったAくん。気が付いた年中組は、「こうやって降りるんだよ。」と優しく降り方を伝えたり、巧技台を組み立て、足台を作ってくれていました。足台に気が付いたAくんは、安心した表情で足台の巧技台にジャンプしました。



そこへ「手伝おうか?!」と来た年長組。「この4段は高すぎない?」と慎重に巧技台の安全を確かめながら、「こうしたらどう?」と新たに巧技台や橋を持って来て範囲が広がってきました。自分たちで「誰か手伝って~!」と声をかけながら運ぶ姿はさすが年長組です。今までの経験から、思い出したり自分達で良く考えて遊ぶことができていますと感心しました。

急に雨が降って来たある日のこと。「滑りそうだから片づけよう。」と巧技台を片付けはじめましたが、「雲が流れていってる!」「あれ?雨止んだ?」と雨が止んだことに気が付いた子ども達。

そこで「巧技台濡れてる…」と巧技台をじっと見つめる年長組のBくん。どうするのかな、と観ていると、Cくんが「拭くしかないか!」と気がつきましたが、何で拭いたらいいか迷っていました。するとDくんが勢いよく年中組の廊下の方へ走っていきました。そのあとを勢いよく走っていくCくん。目をキラキラして帰って来た2人はぞうきんをぎゅっと握りしめていました。その後、隅々まで雨の雫を拭き取り、また新たに巧技台遊びが始まりました。

一人だけの力や考えだけでは難しかったり乗り越えにくいことも、友達と一緒に考えたり力を合わせることで新たな考えが生まれ、できなかったことができるようになったり“楽しい”“面白い”が何倍にも膨らむのですね。他学年で自然と関わるが増え、刺激しあって遊ぶ姿がみられます。今後の関わり合いが楽しみです。